

鳥羽には…海と生きる人の暮らしがあります。

伊 勢志摩は海女のふるさと。海女とは、素潜りで貝や海藻を採る女性の漁師のことで、海女漁は3000年以上も昔から行われてきました。

志摩半島で海女が一番多く暮らしているのが、鳥羽市相差町。春から夏の漁のシーズンになると、相差をはじめ鳥羽各地の漁港で海女たちの姿を見ることが出来ます。

海女は、近場の磯などで1人で潜る「徒人」と、男性(主に夫)の操る船から命綱をつけて海中深く潜る「舟人」に分けられます。どちらの海女も、漁から戻ると閉火裏の火が燃える海女小屋で暖をとり、仲間たちとお喋りしながら楽しい時間を過ごします。小屋からは、海女たちの底抜けに明るい笑い声が聞こえてきます。

海女小屋は、漁だけでなく家事や畑仕事までこなす海女にとって、ほっと一息つける“憩いの場”です。

海女の仕事場である海は、命の危険と隣り合わせです。事故から身を守り、豊漁を願う海女たちの間では、独自の風習や信仰が息づいています。たとえば、海に潜るとき海女が必ず身につけるのは「ドーマン・セーマン」という魔除けの印。また相差の「石神さん」や国崎の「海土潜女神社」は、“海女の守り神”として、地元で厚く信仰されています。そして、海女の祭りもまた各地で賑々と受け継がれています。

平成26年1月23日に、「鳥羽・志摩の海女による伝統的素潜り漁技術」が三重県の無形民俗文化財に、平成29年3月3日には、「鳥羽・志摩の海女漁の技術」が国の重要無形民俗文化財に指定されました。今後とも海女文化の保存・継承していくためユネスコ無形文化遺産登録を目指しています。



真珠の海七草

海女の獲物でもある海藻は、ミネラルや食物繊維が豊富で、健康・美容に効果的。

鳥羽の海は、外海の無野灘から流れてくる黒潮と伊勢湾の潮流がちょうど重なり合い、比較的浅い岩礁部分が広く続いていることから、海藻が育つのに絶好の環境です。この鳥羽の海で採れる海藻をわめてたい「七草」になぞらえ、鳥羽では「真珠の海七草」と名付けました。

七草には「いろいろ」という意味もあり、鳥羽の海では様々な種類の海藻が採れます。

「真珠の海七草」を使った鳥羽の郷土料理を味わってみませんか。



鳥羽の海にゆらめく海藻



真珠の海七草粥



めかぎ干しの風景

鳥羽の海女

鳥羽には…あなたを笑顔にする癒しがあります。

鳥羽の癒し

鳥 羽の太平洋沿いには、「鳥羽温泉郷」と呼ばれる9つの湯処があり、ロケーションや料理が自慢のホテル・旅館が揃っています。目の前の美しい海を眺め、温泉にゆったりと浸かれば、旅の疲れもほぐれる最高の癒しを提供してくれます。

体があたたまったら、夕食は鳥羽の海で獲れた新鮮な魚介が待っています。鳥が羽を休めるように、至福のひとつを過ごしてください。

ゆ りとりした旅なら、鳥羽の海に浮かぶ4つの離島もおすすめです。鳥羽マリンターミナルから市営定期船に乗って、快適な船旅をお楽しみください。島へ着けば、そこには島ならではのスローな時間が流れています。いくつもの漁船が並ぶ昼下がり、港、細い路地が迷路のように入り組んだ町並み、潮風を浴びてゆらゆらとゆれる干物。

初めてなのにどこか懐かしい風景に、不思議なやすらぎを覚えます。見知らぬ旅人にも「こんにちは」と挨拶してくれる子供たちに思わず笑顔がこぼれます。素材がおおらかな島人たちとのふれあいも大きな魅力です。

三島由紀夫の名作「潮騒」の舞台・神島。水軍を率いた戦国武将・九鬼嘉隆が眠る答志島。推理作家・江戸川乱歩ゆかりの坂手島。海女の祭りと日本最古のレンガ造りの灯台で知られる菅島。それぞれに個性豊かな島を、テーマを決めて散策してみたいかかでしょうか。

腕時計をはずして、ただのんびりと島の自然の中で風に吹かれて過ごす、そんな贅沢な時間こそが極上の癒しなのかもしれません。



鳥羽の島遺産100選

独自の歴史や風習、食文化が根づく鳥羽の4つの離島には、数えきれない魅力があふれています。鳥羽では、そんな島の魅力をさらに高め、これからも大切に守り伝えていくために「島遺産100選」を選定・登録しました。「島遺産」は、“郷土料理・名物料理・特産品など”“食材”“自然景観や町並み、風景など”“祭り・イベント、風物詩”“歴史・文化・史跡など”の5つの項目に分けられています。

選ばれたのは、いずれも各島自慢の味やスポット、風景、お祭りなどです。ぜひ、鳥羽の「島遺産」をめぐる“島旅”にお出かけください。

